

「問いの力」

～新入生オリエンテーションで生まれた学びの第一歩～

【質問の焦点】

「八商で学びを深め、自分の夢を叶えるために、自分を成長させる」

あなたなら、このテーマ（質問の焦点）からどんな問いを生み出しますか。
令和8年度新入生オリエンテーションでは、このテーマでQ F Tを実施しました。

〈問いの誕生〉

活動の中で生徒たちは、「夢」「成長」「学び」という言葉を出発点に、多くの問いを生み出しました。

特に印象的だったことは、生徒たちが与えられた言葉をそのまま受け止めるのではなく、その意味を自分なりに捉え直そうとしていたことです。

「夢を叶える」ことについては、「そもそも自分の夢とは何だろう」「夢が見つからない人はどうしたらよいのだろう」といった問いが生まれました。

「成長」については、「何をもって成長と言えるのか」「どのような力を伸ばせばよいのか」といった問いが挙げられました。

「学び」については、「どのような資格を取得できるのか」「どうすれば協調性を高められるのか」「人とのつながりはなぜ必要なのか」など、八商での学びと将来の進路、社会で求められる力を結び付けて考える問いも生まれていました。

一見すると素朴な疑問に見えますが、これらの問いには、生徒たちが自分自身やこれから始まる高校生活を真剣に考えようとする姿勢が表れています。こうした問いは、正解を求めるためのものではありません。自分自身を見つめ、高校生活の目的を考え、これからの行動につなげるための問いです。

〈振り返り〉

活動後の振り返りでは、「一つの問いの中にたくさんの問いが隠れていることに気付いた」「他の人の考えを聞いて、自分の発想が広がった」「普段は考えないことを深く考えることができた」といった内容の感想が多く寄せられました。

また、「質問を考えることが会話のきっかけになる」「相手の考えを知ることができる」といった声もあり、問いを立てる力が学習だけでなく、人との関わりの中でも役立つことを実感している様子が見られました。

QFTは質問をつくるだけの手法ではありません。自分自身を見つめる力、仲間と対話する力、そして主体的に学ぶ力が育つ機会となっていることでしょう。

入学したばかりの生徒たちは、この活動を通して「高校で何を学ぶのか」だけではなく、「なぜ学ぶのか」「どのように成長したいのか」を考え始めています。

自分が生み出した問いの一つひとつは、これからの高校生活を支える大切な出発点です。

生徒たちは、まだ答えを持っていないかもしれませんが、しかし、自ら問いを立てることができれば、学びはより深く、より豊かなものになります。

八戸商業高校では、これからも「教わる学び」だけでなく、「自ら問いを立て、仲間と考え、答えを探究する学び」を大切にしていきます。

この日生まれた問いの数々が、これからの高校生活の中でどのような答えへとつながっていくのでしょうか。生徒たちのこれからの3年間の楽しみですね。

